



# HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	中央アジア関連研究文献リスト2016
Citation	日本中央アジア学会報, 13, 91-100
Issue Date	2017-07-31
Doc URL	<a href="https://hdl.handle.net/2115/88304">https://hdl.handle.net/2115/88304</a>
Type	other
File Information	JB013_018list.pdf



## 中央アジア関連研究文献リスト 2016

本リストは、2016年(1月～12月)に刊行された、原則としてイスラーム化以降の中国新疆、旧ソ連領のムスリム地域およびその周辺地域に関する学術文献をリストアップしたものである(理科系のものを除く)。原則的に、国内で刊行された、国内で活動する研究者による著作を中心とし、エッセイや辞典項目等は除外した。ただし、本学会会員の著作については、海外刊行のものも一部含まれる。なお、各文献の副題はコロンつなぎで統一した。

## 書籍

- 秋山徹『遊牧英雄とロシア帝国：あるクルグズ首領の軌跡』東京大学出版会(7,000円)
- 荒川正晴、柴田幹夫(編)『シルクロードと近代日本の邂逅：西域古代資料と日本近代仏教』勉誠出版(8,500円)
- 岩波書店辞典編集部(編)『世界の名前』岩波書店(800円)
  - 「意外に「国際的」な名前：アルメニア」(吉村貴之)
  - 「カミカゼ通り：ゲルジア」(児島康宏)
  - 「遊牧・イスラーム・ソ連の響き：カザフスタン」(宇山智彦)
  - 「ウイグル人の名付けと祈り：ウイグル語」(菅原純)
  - などを所収
- 石見清裕(編著)『ソグド人墓誌研究』汲古書院(12,000円)
- ヴァレリー・ハンセン(田口未和 訳)『図説シルクロード文化史』原書房(5,000円)
- 梅村坦(編)『中央ユーラシアへの現代的視座〈中央大学政策文化総合研究所研究叢書 21〉』中央大学出版部(2,500円)
- 宇山智彦(編著)『ユーラシア近代帝国と現代世界〈ユーラシア地域大国論 4〉』ミネルヴァ書房(4,500円)
- 岡田英弘『岡田英弘著作集 7 歴史家のまなざし』藤原書店(6,800円)
- 岡田英弘『岡田英弘著作集 8 世界的ユーラシア研究の六十年』藤原書店(8,800円)

- 岡田英弘『チンギス・ハーンとその子孫：もうひとつのモンゴル通史』ビジネス社 (2,700円)
- 岡田英弘(編)『モンゴルから世界史を問い直す』藤原書店 (3,200円)
- 小澤実、長縄宣博(編著)『北西ユーラシアの歴史空間：前近代ロシアと周辺世界〈スラヴ・ユーラシア叢書12〉』北海道大学出版会 (3,600円)
- 嘉木揚凱朝『モンゴルにおける浄土思想』法蔵館 (6,000円)
- 風戸真理、尾崎孝宏、高倉浩樹(編)『モンゴル牧畜社会をめぐるモノの生産・流通・消費〈東北アジア研究センター叢書第58号〉』東北大学東北アジア研究センター (非売品)
- 金沢工業大学国際学研究所編『安全保障と国際関係』内外出版 (2,000円)  
「移行期にある中央アジアのエネルギー安全保障：タジキスタンとウズベキスタンの対立と中国の台頭」(稲垣文昭)  
などを所収
- ガンバガナ『日本の対内モンゴル政策の研究：内モンゴル自治運動と日本外交1933年-1945年』青山社 (6,944円)
- 岸上伸啓(編)『贈与論再考：人間はなぜ他者に与えるのか』臨川書店 (4,500円)  
「カザフスタンにおける喜捨の展開：アッラー・死者・生者の関係に着目して」(藤本透子)  
「現代モンゴル国における贈与：ゲルとその部品のバイオグラフィーより」(風戸真理)  
などを所収
- 児島建次郎、山田勝久、森谷公俊『ユーラシア文明とシルクロード：ペルシア帝国とアレクサンドロス大王の謎』雄山閣 (3,240円)
- 小長谷有紀・鈴木紀・旦匡子(編)『ワールドシネマ・スタディーズ：世界の「いま」を映画から考えよう』勉誠出版 (2,376円)  
「トゥルー・ヌーン タジキスタンの国境問題と地雷問題：ソ連時代からの負の遺産」(島田志津夫)  
などを所収
- 小松久男(編著)『テュルクを知るための61章』明石書店 (2,000円)
- 佐々木史郎、渡邊日日(編)『ポスト社会主義以後のスラヴ・ユーラシア世界〈国立民族学博物館論集4〉』風響社 (4,500円)
- 張東翼『モンゴル帝国期の北東アジア』汲古書院 (10,000円)
- 土肥義和(編)『八世紀末期～十一世紀初期 燉煌氏族人名集成：索引篇』汲古書院 (20,000円)
- 豊川浩一『一八世紀ロシアの「探検」と変容する空間認識：キリーロフのオレンブルク遠征とヤーロフ事件』山川出版 (5,000円)
- 萩田麗子『ウイグルの荒ぶる魂：闘う詩人アブドゥハリク・ウイグルの生涯』高木書房 (1,620円)
- 廣瀬陽子『アゼルバイジャン：文明が交錯する「火の国」〈ユーラシア文庫5〉』群像社 (972円)

- 水島司(編)『環境に挑む歴史学』勉誠出版(4,536円)  
「遊牧民の移動と国際関係：中央ユーラシア環境史の一断面」(野田仁)  
などを収録
- 村上勇介(編)『BRICs 諸国のいま：2010年代世界の位相(CIAS Discussion Paper Series No.57)』  
京都大学地域研究統合情報センター(非売品)  
宇山智彦「権威主義ロシアの「帝国」化の賭け：旧ソ連諸国統合・反米主義・対中接近」  
などを所収
- 村上勇介、帯谷知可(編著)『融解と再創造の世界秩序〈京都大学地域研究統合情報センター  
叢書サブシリーズ相関地域研究2〉』青弓社(2,600円)  
帯谷知可「社会主義的近代とイスラームが交わる場所：ウズベキスタンのイスラーム・  
ベール問題からの眺め」  
などを所収
- 守川知子(編著)『移動と交流の近世アジア史』北海道大学出版会(5,200円)
- 楊海英『逆転の大中国史：ユーラシアの視点から』文藝春秋(1,550円)
- 楊海英『モンゴル人ジェノサイドに関する基礎資料8：反右派闘争から文化大革命へ〈静岡  
大学人文社会科学部研究叢書52：内モンゴル自治区の文化大革命8〉』風響社(20,000円)
- BELLÉR-HANN Ildikó, SCHLYTER Birgit N., and SUGAWARA Jun (eds.). *Kashgar Revisited: Uyghur Studies in Memory of Ambassador Gunnar Jarring*. Leiden: Brill Academic Publishers. (112USD)
- BROPHY David and ONUMA Takahiro. *The Origins of Qing Xinjiang: A Set of Historical Sources on Turfan*(TIAS Central Eurasian Research Series No.12). Tokyo: The University of Tokyo(非売品)
- DADABAEV Timur and KOMATSU Hisao (eds.). *Kazakhstan, Kyrgyzstan and Uzbekistan: Life and Politics during the Soviet Era*. New York: Palgrave Macmillan (11,928円)
- FARKHSHATOV Marsil N., ISOGAI Masumi, and BULGAKOV Ramil M. (eds.). “My Biography” of *Riḍā’ al-Dīn b. Fakhr al-Dīn (Ufa, 1323 A.H.) with an Introductory Essay and Indexes* (TIAS Central Eurasian Research Series No.11). Tokyo: The University of Tokyo (非売品)
- NODA Jin. *The Kazakh Khanates between the Russian and Qing Empires: Central Eurasian International Relations during the Eighteenth and Nineteenth Centuries*. Leiden: Brill (149USD)
- OBIYA Chika (ed.). *Islam and Gender in Central Asia: Soviet Modernization and Today’s Society* (CIAS Discussion Paper No. 63). Kyoto: Center for Integrated Area Studies (非売品)  
“The Politics of the Veil in the Context of Uzbekistan” (OBIYA Chika)  
“Women, Marriage, and the Market Economy in Rural Uzbekistan” (SONO Fumoto)  
“Jahri Zikr as Practiced by Women in Post-Soviet Uzbekistan” (WAZAKI Seika)  
などを所収
- SUGAWARA Jun & DAWUT Rahile (eds.) *Mazar: Studies on Islamic Sacred Sites in Central Eurasia*. Fuchu, Tokyo: Tokyo University of Foreign Studies Press (3,888円)

- YAMADA Takako and FUJIMOTO Toko (eds.) *Migration and the Remaking of Ethnic/Micro-Regional Connectedness* (Senri Ethnological Studies 93). Osaka: National Museum of Ethnology (非売品)  
“The Kazakh Minority in Mongolia: Falconry as a Symbol of Kazakh Identity” (ALTANGUL Bolat)  
“Migration to the “Historical Homeland:” Remaking Connectedness in Kazakh Society beyond National Borders.” (FUJIMOTO Toko)  
などを所収
- *Туркестанское восстание 1916 г.: факты и интерпретации: материалы Международной научной конференции (Москва, 23–24 мая 2016 г.)*. М.: ИРИ РАН.  
“Восстание, рожденное в войне: влияние Первой мировой войны на катаклизм в Центральной Азии в международном контексте.” (Уяма Томохико)  
などを所収

## 論文

- 秋葉優香「カザフスタンの経済動向と産業構造改革の行方」『国際金融』1287, 38–44頁
- アブドゥッカディロフ・ラスルベク「海外事情 Kyrgyz Republic : キルギス共和国 オシユ市 : 中央アジアの真珠」『建設コンサルタンツ協会会誌』271, 46–49頁
- アミロヴァ・ナルギザ「ウズベキスタンにおける同性愛者の婚姻問題に対する法的対応 (2015年度・福岡大学法科大学院・国際シンポジウム アジアにおける同性婚に対する法的対応 : 家族・婚姻の視点から (2・完))」『福岡大学法學論叢』61(3), 906–910頁
- 新井才二「キルギス共和国、中世アク・ベシム遺跡の動物経済について」『東京大学考古学研究室研究紀要』30, 69–80頁
- アローハン「グンサンノルブによる日本陸軍軍人招聘 : 伊藤柳太郎が招聘された経緯と背景」『内陸アジア史研究』31, 93–117頁
- 石濱裕美子「マンネルハイムのアジア旅行関連資料とそれに基づくチベット仏教徒の動向について」『内陸アジア史研究』31, 145–163頁
- 石村 眞一「パキスタンおよびタジキスタンにおける桶・樽の伝播経路」『郡山女子大学紀要』52, 103–118頁
- 稲垣文昭「中央アジアを巡る米国の動向」『国際情勢 : 紀要』86, 89–97頁
- 井上岳彦「ダムボ・ウリヤノフ『ブッダの予言』とロシア仏教皇帝像」『スラヴ研究』63, 45–77頁。
- 岩倉洸「書評 菊田悠『ウズベキスタンの聖者崇敬 : 陶器の町とポスト・ソヴィエト時代のイスラーム』」『イスラーム世界研究』9, 387–390頁
- 岩田啓介「グーシ＝ハン死後の青海ホシュート部の基本構造 : ハンと総管の二極構造」『社会文化史学』59, 55–74頁

- 岩田啓介「雍正年間における清朝の青海モンゴル支配の実態：統属関係への介入と盟旗制の運用を中心として」『東洋学報』98(1), 124-99頁
- 石見清裕「ユーラシアの民族移動と唐の成立：近年のソグド人関係新史料を踏まえて」『専修大学社会知性開発研究センター古代東ユーラシア研究センター年報』2, 5-16頁
- 岩本篤志「カラ・テペ新出文字資料と周辺遺跡：テルメズ・アンゴル地域を中心に」『立正史学』119, 1-18頁
- 植田暁「フェルガナ地方における綿花栽培の復興 1917～1929年」『社会経済史学』82(2), 219-240頁
- 上野稔弘「英国立公文書館所蔵の中国新疆関係文書について：1930～40年代を中心に」『東北アジア研究』20, 105-131頁
- 梅村坦「日本の人文系分野における新疆現地調査研究（1970年代～）の回顧について（附1：小島康孝氏の訪問実績、附2：華立氏「清代回民の新疆移住史をめぐる現地調査について）」『研究報告書 日本とユーラシア社会：調査の現場から〈中央大学政策文化総合研究所「日本とユーラシア社会－海洋と大陸の歴史・文化」プロジェクト』』95-153頁
- 宇山智彦「頑健な権威主義体制の行方：ウズベキスタン・カリモフ大統領の死」『世界』2016年11月号、29-32頁
- 大西啓司「西夏王国に於ける文化の継承問題について：『聖立義海』に見られるタングート人の祖先の名と祖先説話をもとに」『立命館東洋史学』39, 1-30頁
- 岡奈津子「命の沙汰も金次第：カザフスタンの医療分野における贈収賄」『アジ研ワールド・トレンド』22(7), 32-38頁
- 岡洋樹「書評 谷井陽子著 八旗制度の研究」『東洋史研究』74(4), 801-809頁
- 小田木治太郎「内蒙古・長城地帯の青銅器文化」『季刊考古学』135, 34-37頁
- 小田桐奈美「キルギス語とロシア語のコード・スイッチングに関するパイロット研究」『関西大学外国語学部紀要』15, 21-32頁
- 小沼孝博「瓜州トルファン人社会（1733-1756）：清の領域拡大の最前線」『西南アジア研究』85, 18-39頁
- 小沼孝博「中央アジア・オアシスにおける政治権力と隊商交易：清朝征服前後のカシュガリアを事例に」『東洋史研究』75(1), 1-34頁
- 帯谷知可「中央アジアのムスリム定住民女性とイスラーム・ヴェールに関する帝政ロシアの植民地主義的言説」『西南アジア研究』84, 40-54頁
- 影山悦子「中国北部に移住したソグド人の葬具について：欧米の博物館が分蔵する石棺床囲屏のCGによる復元」『関西大学アジア文化研究センターディスカッションペーパー』13, 41-45頁

- 葛西賢太「書評とリプライ 滝澤克彦著『越境する宗教 モンゴルの福音派：ポスト社会主義 モンゴルにおける宗教復興と福音派キリスト教の台頭』」『宗教と社会』22, 82-85頁
- 片山章雄「第五〇回 フィンランド・マンネルヘイム収集の新疆資料と日独露仏の探検隊 (彙報 二〇一五年度前期東洋学講座講演要旨 漢語資料を通じて見た内陸アジアの諸民族)」『東洋学報』97(4), 484-486頁
- 片山章雄「トゥルフアン地域の仏典断片における新接続」『東海大学紀要・文学部』105, 171-177頁
- 片山章雄「トゥルフアン地域の仏典断片と諸国の探検隊」『東海史学』50, 41-55頁
- 上村明「アルタイ・オリアンハイ人はなぜアルタイを越えたのか？：1930年の「集団逃亡」について」『内陸アジア史研究』31, 119-143頁
- 河野明日香「中央アジアにおける生涯学習・成人教育とコミュニティ施設：ウズベキスタンのマハッラを事例として (国際交流・比較研究)」『日本公民館学会年報』13, 87-98頁
- 橘堂晃一「古代ウイグル語「華嚴経」研究の新展開：奥書と訳出の背景を中心に」『東洋学苑』86・87, 1-25頁
- 橘堂晃一「書評 森安孝夫著『東西ウイグルと中央ユーラシア』」『内陸アジア史研究』31, 175-183頁
- 木下光弘「内モンゴル綏遠地域を巡る漢人・モンゴル人の争いとその流動的な多様性：傅作義と徳王を中心に」『敬和学園大学研究紀要』25, 89-105頁
- 熊倉潤「書評 寺山恭輔著『スターリンと新疆』」『内陸アジア史研究』31, 208-209頁
- 隈部兼作、畔蒜泰助、原田大輔、杉浦敏廣「座談会 中央アジア・コーカサスのエネルギー情勢」『石油学会情報誌』39(8), 596-610頁
- 啓之 (劉燕子 訳)「内モンゴル文化大革命における「めぐり出して肅清する (挖肅)」運動：原因、過程、及び影響 (過ぎ去らぬ文化大革命：50年後の省察)」『思想』1101, 91-109頁
- 小泉悠「軍事介入を恐れる中央アジア5か国の軍事力 高齢化指導者の権威主義的な政治体制 ロシアの柔らかな下腹部」『軍事研究』51(8), 206-219頁
- 河野敦史「ジャハーンギールの侵入事件における伊薩克の活動に関する一考察」『中央大学アジア史研究』40, 182-155頁
- 齊藤茂雄「「張茂宣墓誌」よりみる唐・ウイグル・吐蕃間の国際関係」『史滴』38, 62-91頁
- 斎藤完「ウズベキスタン共和国におけるユネスコ無形文化遺産・ナウルーズの実践：国家主催によるナウルーズの祭典」『研究論叢・第3部, 芸術・体育・教育・心理』66, 107-116頁
- 佐藤優「中央アジアに「第二イスラム国」ができる日」『みるとす = Myrtos : イスラエル・ユダヤ・中東がわかる』148, 12-19頁
- 澤田稔「『タズキラ・イ・ホージャガン』日本語訳注(4)」『富山大学人文学部紀要』64, 81-106頁

- 澤田稔「『タズキラ・イ・ホージャガーン』日本語訳注(5)」『富山大学人文学部紀要』65, 21-44頁
- 塩野崎信也「『種蒔く人』と民族名としての「カフカースのムスリム」」『西南アジア研究』84, 24-39頁
- 塩野崎信也「ロシア帝国の「イラン民族主義者」アーフンドザーデの帰属意識」『内陸アジア史研究』31, 49-72頁
- 塩谷哲史「ニコライ・コンスタンチノヴィチ大公のアムダリヤ転流計画：英露関係とトルクメン問題の文脈から」『内陸アジア史研究』31, 73-92頁
- 島田志津夫(訳・解題)「V.V.バルトリド「タジク人：歴史的概説」」『東京外国語大学論集』92, 305-330頁
- 徐銘「敦煌における9、10世紀の「印沙仏」儀礼の考察」『国立歴史民俗博物館研究報告』200, 115-126頁
- 白石典之「幹里札河の戦いにおける金軍の経路」『内陸アジア史研究』31, 27-48頁
- 白須淨眞「書評 森安孝夫著『東西ウイグルと中央ユーラシア』」『史学雑誌』125(10), 1761-1771頁
- 菅沼愛語「九世紀前半の東部ユーラシア情勢と唐の内治のための外交：吐蕃との長慶会盟、ウイグルへの太和公主降嫁の背景」『史窓』73, 1-25頁
- 戴玥「中央ユーラシア東部における青銅短剣の展開と地域間の関係」『中国考古学』16, 175-195頁
- 田中周「書評 寺山恭輔著『スターリンと新疆：1931-1949年(社会評論社、2015年)』」『西洋史学論集』53, 53-56頁
- 田中哲二「「一帯一路構想」と「AIIB」設立の背景等」『中国研究月報』70(1), 2-17頁
- 谷井陽子「清朝と「中央ユーラシア的」国家：杉山清彦著『大清帝国の形成と八旗制』に寄せて」『新しい歴史学のために』289, 67-83頁
- チャスチャガン「20世紀におけるオイラド・モンゴルの移住：「ガンスン」の事例に関する予備的考察」『総研大文化科学研究』12, 103-116頁
- 張允禎(鈴木広樹 訳)「古代ユーラシアの馬文化：モンゴル・中国・韓国を中心に」『専修大学社会知性開発研究センター古代東ユーラシア研究センター年報』2, 59-70頁
- 張憲俊(田牧陽一 訳)「ウクライナ危機後のロシア対中国関係：中央アジアでの関係に焦点を当てて(特集 ウクライナ危機後の内外環境の変化)」『ロシア・ユーラシアの経済と社会』1008, 2-22頁
- 寺村裕史「シルクロード研究最前線 ウズベキスタンの都市遺跡発掘現場より」『季刊民族学』40(4), 61-74頁

- 「特集 中央アジアと日本の経済関係の新展開」『ロシア NIS 調査月報』61(1), 1-81
  - 「INTRODUCTION 中央アジアの最新の政治・経済状況」
  - 「資料 安倍首相の中央アジア・モンゴル歴訪の記録」
  - 「イベント・レポート」
    - 日本・カザフスタン・ビジネスフォーラム
    - 日本・ウズベキスタン・ビジネスフォーラム
    - 日本・トルクメニスタン・ビジネスフォーラム
  - 「ビジネス最前線 水処理膜技術でカザフスタンの水資源の有効活用を」
  - 「キーパーソンに訊く 地域の安定に重要な役割を果たすタジキスタン」
  - 「データバンク 2015年1～9月の日本・中央アジア貿易統計」
  - 「中央アジア情報バザール カザフスタンの地域クローズアップ」
  - 「イベント・レポート キルギスとタジキスタンの食品加工産業」
  - 「エネルギー産業の話題 ウズベキスタンと外資系石油ガス会社」
  - 「自動車産業時評 2015年1～9月期のカザフスタン乗用車市場」
  - 「地域クローズアップ 中央アジア交流の歴史的拠点オレンブルグ州」
- 中田美繪「唐代中國におけるソグド人の佛教「改宗」をめぐる」『東洋史研究』75(3), 448-484頁
- 中村大介「東端の遊牧民」『季刊考古学』135, 43-47頁
- 中村仁志「ロシア史におけるカシモフ皇国」『關西大學文學論集』66(2), 1-16頁
- ナムジャウ「新疆オイラド・モンゴル社会における活仏の影響：シャリワン・ゲゲン 14世の円寂に着目して」『総研大文化科学研究』12, 117-137頁
- 西村陽子「唐後半華北諸藩鎮の鐵勒集團：沙陀系王朝成立の背景」『東洋史研究』74(4), 678-715頁
- ヌルマンベトヴァ・アクベルメット「日本の対キルギス外交政策における ODA の意義：キルギス共和国日本人材開発センターを事例に」『筑波大学地域研究』37, 93-114頁
- ネマトフ・ジュラベック「ウズベキスタンにおける行政裁判制度の法的諸問題(4)：旧ソ連における行政に対する司法審査との比較研究」『名古屋大学法政論集』267, 161-192頁
- ネマトフ・ジュラベック「ウズベキスタンにおける行政裁判制度の法的諸問題(5)：旧ソ連における行政に対する司法審査との比較研究」『名古屋大学法政論集』268, 247-269頁
- 白玉冬、松井太「フフホト白塔のウイグル語題記銘文」『内陸アジア言語の研究』31, 29-77頁
- ハムゴト「近代内モンゴル民族主義運動の一考察：一九二五～三一年の呉鶴齡の活動を中心に」『史学研究』(291), 1-23頁
- 早川尚志「= 書評 = Adam J. SILVERSTEIN, *Postal Systems in the Pre-Modern Islamic World*」

- Cambridge: Cambridge University Press, 2007.』『内陸アジア言語の研究』31, 87-98頁
- 早川尚志「モグール・ウルス後期の交通とその掌握——宿駅と通行証の観点から——」『イスラム世界』86, 33-59頁
  - ハルミルザエヴァ・サイダ「ウズベキスタンの語り手バクシ：過去と現状」『アジア民族文化研究』15, 1-17頁
  - 伴真一朗「アルタン・ハーン以降のモンゴルのアムド進出とアムド・チベット人土司のゲルク派への接近：西寧シナ領主を事例として」『東洋学報』97(4), 518-494頁
  - 平田昌弘、山田勇、内田健治、元島英雅「キルギス共和国の乳加工体系の特徴とその発達史」『ミルクサイエンス』65(1), 11-23頁
  - 普後一、川端良子、飯久保誠、大澤光男「海外情報 ウズベキスタン養蚕振興と東京農工大学プロジェクトの概要」『シルクレポート』49, 10-15頁
  - 藤本透子「書評 滝澤克彦『越境する宗教 モンゴルの福音派：ポスト社会主義モンゴルにおける宗教復興と福音派キリスト教の台頭』」『東北アジア研究』20, 185-192頁
  - プラット ジェイソン「中央アジアの過激派とロシア経済」『ロシア・ユーラシアの経済と社会』1009, 33-43頁
  - 包宝海「『ガーダー・メイレン蜂起』に関する一考察：『盛京時報』、『東三省民報』を中心に」『日本モンゴル学会紀要』46, 61-74頁
  - 包呼和本其尔「清代後期内モンゴル・ハラチン地域における土地と財産とアルバ」『日本モンゴル学会紀要』46, 35-48頁
  - 堀江典生「湯浅剛著『現代中央アジアの国際政治：ロシア・米欧・中国の介入と新独立国の自立』」『比較経済研究』53(1), 58-61頁
  - 町田一兵「講演録 新シルクロードと中国・ロシア・中央アジア関係(特集 ユーラシア経済空間の諸相)」『ロシア NIS 調査月報』61(4), 42-47頁
  - マムマドフ・アリバイ「北方領土問題をめぐる日本人元島民・後継者の アンケート調査」『境界研究』6, 137-164頁
  - 宮本一夫「モンゴル高原における青銅器時代板石墓の変遷と展開」『史淵』153, 31-57頁
  - 村井恭子「河西と代北：九世紀前半の唐北邊藩鎮と遊牧兵」『東洋史研究』74(2), 225-260頁
  - 村串まどか、澤村大地、柳瀬和也、ラブチェフ・セルゲイ、ISIRALIEVA, A.、稲垣肇、BOBOMULLOYEV, S.、中井泉「可搬型蛍光 X 線分析装置を用いた中央アジア出土古代ガラスの化学組成とその流通について」『X 線分析の進歩』47, 207-224頁
  - 森彰夫「キルギスタンにおける民族化された紛争」『東北公益文科大学総合研究論集：Forum 21』30, 27-53頁
  - 森孝一「書評と紹介 滝澤克彦著『越境する宗教 モンゴルの福音派：ポスト社会主義モンゴ

ルにおける宗教復興と福音派キリスト教の台頭』『宗教研究』90(1), 197-202頁

- 森部豊「中国におけるソグド人墓の発見とソグド石棺牀の復元」『関西大学アジア文化研究センターディスカッションペーパー』14, 63-69頁
- 山根直生「五代洛陽の張全義について:「沙陀系王朝」論への応答として」『集刊東洋学』114, 48-66頁
- 楊海英「イスラム過激派が狙う「独裁者」なき中央アジア」『ニューズウィーク』31(36), 18頁
- 楊海英「内モンゴルの中国文化大革命研究の現代史的意義(過ぎ去らぬ文化大革命:50年後の省察)」『思想』1101, 72-90頁
- 楊海英「地政学的要衝を支配する遊牧民の手腕:中央アジア」『ニューズウィーク』31(18), 33頁
- 吉田順一「モンゴル人の農耕」『内陸アジア史研究』31, 1-26頁
- 吉武惇二「中国のエネルギー問題(5)中央アジアから中国への天然ガスパイプライン」『クリーンエネルギー』25(4), 69-78頁
- 和崎聖日「ウズベキスタンにおける民族格闘技クラッシュ:歴史と現在」『アリーナ』19, 346-353頁
- AKIYAMA Tetsu, “Why Was Russian Direct Rule over Kyrgyz Nomads Dependent on Tribal Chieftains ‘Manaps’?” *Cahiers du Monde Russe* 56 (4), pp.625-649.
- DODKHUDOEVA Larisa 「タジキスタンの現代織物に見る古代の象徴」『Miho Museum 研究紀要』16, 147-157頁
- KAWAGUCHI Takushi and NAGAMINE Hiroyuki. “Rethinking the Political System of the Jöchid,” *Acta Orientalia Academiae Scientiarum Hungaricae*. 69 (2), pp.165-181.
- KIKUTA Haruka, “Remittances, Rituals and Reconsidering Women’s Norms in Mahallas: Emigrant Labour and Its Social Effects in Ferghana Valley,” *Central Asian Survey* 35 (1), pp. 91-104.
- KOROBOCHKINA Alena 「中央アジア安全保障とSCO首脳会議2015」『現代社会文化研究』62, 163-179頁
- MAHMUDOV Umid 「冷戦後日本の中央アジア政策と戦略:「中央アジア+日本」対話を中心に」『法政大学大学院紀要』77, 65-90頁
- NURMAMEDOVA Zuleyha 「トルクメニスタンに於ける天然染色の起源:技術史の問題を中心に」『Miho Museum 研究紀要』16, 177-184頁
- UYAMA Tomohiko, “Repression of Kazakh Intellectuals as a Sign of Weakness of Russian Imperial Rule: The Paradoxical Impact of Governor A.N. Troinitskii on the Kazakh National Movement,” *Cahiers du Monde Russe* 56 (4), pp. 681-703.